

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

8月6日に祝津ホタテ養殖漁場のホタテ部会の試験用桁で、表層から水深30mの浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした（表1）。しかし、5月12日に垂下した試験籠への付着状況では 92 個体と非常に多くの付着を確認しました（図1）。付着サイズは平均17.9mm（最大26.0mm、最小8.7mm）でした。試験籠は5月から翌年4月まで入れっぱなしのため、ザラボヤの付着時期が特定できません。そのため、今年度から籠の中にザラボヤ付着器（写真1）を毎月設置して2か月後に回収しています。設置から1か月程度の物が目視で確認できるサイズに成長していると想定しており、5月の中旬から6月上旬にかけてザラボヤの付着が多かったものの、6月中旬から7月上旬は少なかったと推定しています（表2）。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温 【℃】	クロロフィル 【μg/L】	ザラボヤ	
				個	個/トッ
ホタテ部会の 調査桁	0~30m	19.9~26.2	0.0~0.3	0	0

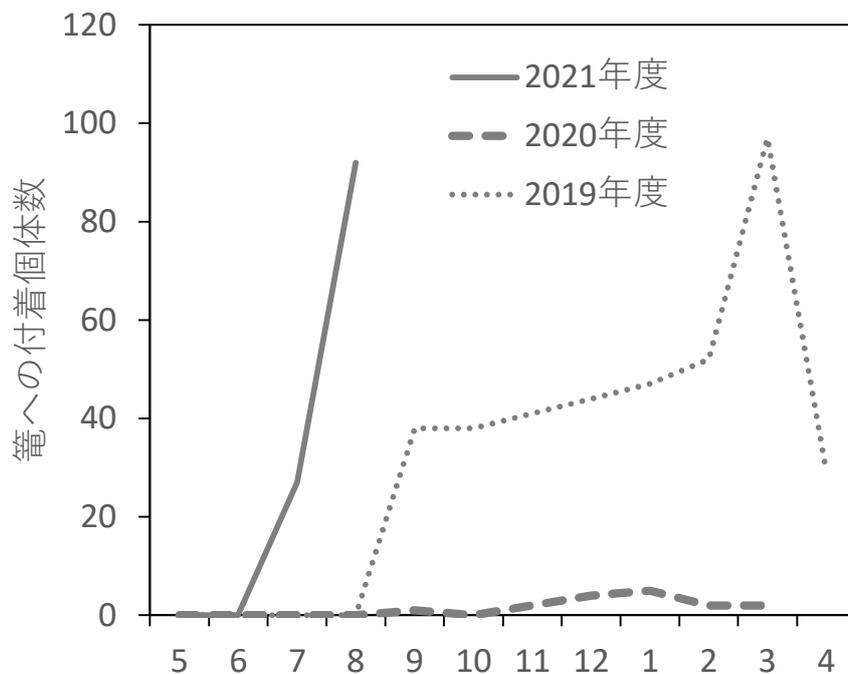


図1：籠へのヨーロッパザラボヤの付着数の変化



写真1：ザラボヤ付着器

表2：付着器へのザラボヤ付着数

設置	回収	付着数
5月12日	7月14日	21
6月16日	8月6日	0

【参考資料】

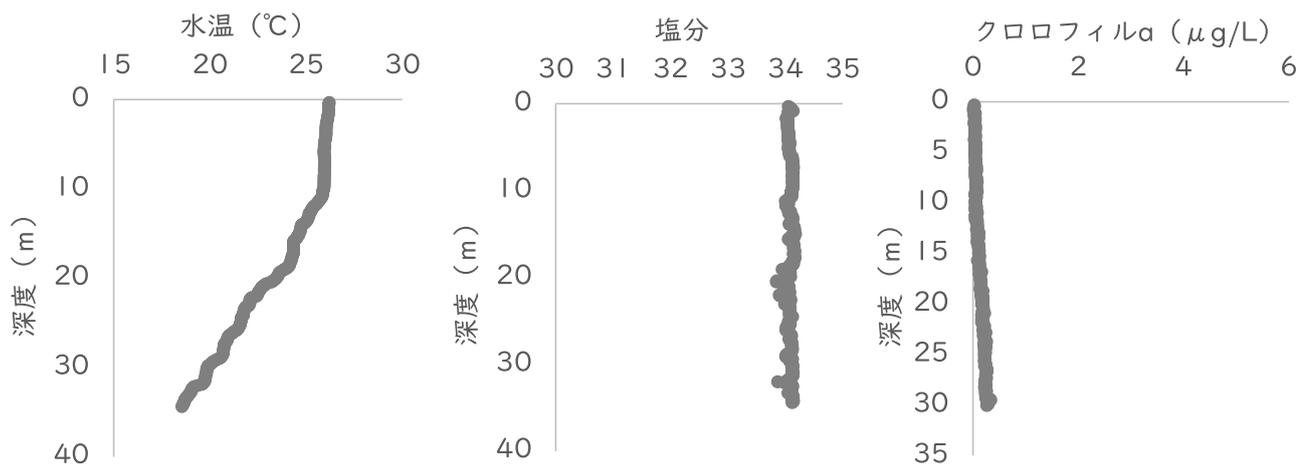


図2：ホタテ部会調査桁の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します（次回調査：9月中旬に実施予定）。

※調査結果は中央水産試験場HPからも確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd000002m9a.html>